



# 男女共同参画推進機構 Newsletter

男女共同参画推進本部・ダイバーシティ研究環境支援本部・キャリア開発支援本部・ダイバーシティ推進センター

## 2022年度（令和4年度）男女共同参画推進活動

令和4年4月より学長補佐(男女共同参画担当)、および、男女共同参画推進機構長を拝命いたしました研究院生活環境科学系スポーツ健康科学領域の星野聡子です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

男女共同参画推進機構では、今年度も3本部の事業に加えて、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」と「奈良女子大学博士号取得支援SGCフェローシップ」、「奈良女子大学博士後期課程学生支援SGC+ プロジェクト」の各事業に精力的に取り組みました。

新型コロナウイルスの流行により学術交流の場も一変しておりましたが、国際・国内学会もようやく対面開催が叶い、「研究スキルアップ支援経費」への応募が殺到しました。また、ハイブリッド開催した関西圏女子大学連携プロジェクトの「第11回異分野交流会」では、理系・文系領域を越えて多数の研究者が集いました。社会への意識啓発事業「知る・学ぶ・伝えるequality 連続講座」では、オンラインとオンデマンド配信により、全国各地から高い評価をいただきました。さらに、大学院生に対して、手厚い経済的支援、並びに、学位取得後のキャリアパスを豊富にすることを目的とした長期インターンシップや企業セミナー等の多くの事業を行いました。

今年度の新たな展開もございます。附属病院をもたない機関における「訪問型」病児・病後児保育の取組において、2021年4月からの「病後児保育」の試験的運用に続き、「病児保育」の運用に向けた支援中のリスク管理を、小児科医や看護師との連携のもとで検討しました。また、女性研究者に対する学外の団体や企業による研究費の助成では、「奈良ゾンタクラブ理系若手女性研究者奨励賞」に続いて、新たに米国マイクロン財団の「奈良女子大学マイクロン科学技術研究助成」を募集しました。大学院生を助成対象として広げたことで、自身の研究に要する財務面の運用も経験していただきました。また、「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」（2月現在 34機関）では、初顔合わせ会を開催し、企業や大学におけるダイバーシティ推進課題を共有しました。本学においては学長の強いリーダーシップのもと、6月15日に「一般事業主行動計画達成のための奈良女子大学の取組方針」が新たに制定、学内に公表されました。ここには、令和4年からの6年間に「在職者に占める女性教員比率を44%に向上させる。特に女性教員比率が低い自然科学系分野については、積極的に女性教員の採用と上位職への登用を行い、女性教員の在職比率を35%、上位職比率を31%に向上させる。」という女性活躍推進の意欲的な目標が掲げられております。

奈良女子大学は、男女共同参画社会をリードする人材を育む、大学教育の醸成された雰囲気を用意していると思います。学術の進歩のために、女性が男性とともに活躍できる取組をこれからも発展させてまいります。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻、そして、ご理解とご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。



2023年3月

奈良女子大学学長補佐（男女共同参画担当）・男女共同参画推進機構長

星野 聡子



## 武庫川女子大学との包括連携協定の締結

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業の連携機関として共に取組を進めてきた武庫川女子大学と奈良女子大学が、令和5年3月7日に包括連携協定を締結した。武庫川女子大学と奈良女子大学は、これまでも教育・研究で交流があり、関西圏女子大学連携プロジェクトのワーキング・グループのメンバーとして2015年度より毎年1-2回の異分野交流会を開催するなど、実質的な連携・協力を行ってきた。武庫川女子大学の教員が「ならっこネット」に登録され、託児を利用されたこともある。本事業では「訪問型」病児・病後児保育システムの地域展開を目指しているが、武庫川女子大学では、「ならっこネット」と同様のシステムを運用するためのWebシステムの開発、サポーターの育成等を行っている。包括連携協定締結後は一層広く実質的な連携協力を行っていく予定である。

## 「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築

1. 昨年度に引き続いて「訪問型」病後児保育支援の試験的運用を行い、「Webならっこ」（本学が開発した託児支援Webシステム）を使用し、これまでに6件実施した。システムのモデル構築のため、専門家を入れた検討WGにおいて、病児保育を視野に入れた様々な課題について具体的な検討を行った。
2. 大学の顧問弁護士との面談を行い、病児・病後児保育支援を行う上でのリスク管理に関して実質的な助言をいただき、利用者とサポーターの手引きの改訂を行った。
3. 病児・病後児保育サポーター登録説明会を行い、サポーター登録を行った。
4. 病児・病後児保育支援のサポーター講習会を開催した。
5. 「訪問型」病児・病後児保育システムの地域への普及のために、連携機関や自治体等と意見交換を行った。
6. 奈良女子大学子育て支援システムの武庫川女子大学への導入に向けた打合せを行った。

## 女性研究者の上位職への登用に向けた取組

2019年度に制定した女性管理職支援制度を、2022年度には4名の女性管理職の方に適用した。

## ワークライフバランス支援相談室の共同利用

ワークライフバランス支援相談室の共同利用を進め、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためにミニ講座（全9回）をオンラインで開催した。のべ90名の参加（本学より61名、共同実施機関より29名）があった。

## 共同研究スタートアップ支援事業を6機関連携で実施

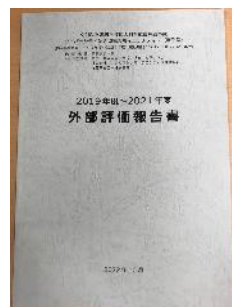
6機関の連携で共同研究スタートアップ支援事業を実施し、女性研究者が代表研究者となっている2件の共同研究が採択された（代表研究者：奈良女子大学1件、武庫川女子大学1件）。

## 特に優秀な女性研究者の顕彰と研究費支援を3機関連携で実施

奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学の連携で、特に優秀な女性研究者対象の賞「ダイバーシティ推進センター女性研究者賞」の募集を行い3名の女性研究者（奈良女子大学1名、武庫川女子大学2名）が選ばれ研究費が支援された。奈良女子大学の受賞者は、研究院生活環境科学系 鈴木則子教授。

## 外部評価報告書の作成

2022年度には、これまでに毎年行ってきた外部評価の結果をとりまとめ、事業3年間の外部評価報告書を発行した。4名の外部評価委員による毎年の評価レポートとそれに対する回答と今後に向けた改善点が述べられている。また、令和4年2月に行った外部評価委員会の詳しい内容を掲載している。外部評価委員の講評ではおおむね評価が高く、中でも「『訪問型』病児・病後児保育システムのモデル構築」と「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」の今後の活動に期待が寄せられた。



写真左より  
奈良女子大学における「女性研究者賞」授賞式、ワークライフバランス支援相談室ミニ講座チラシ、外部評価報告書

【お問い合わせ】 奈良女子大学ダイバーシティ推進センター

✉ [diversity-center@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:diversity-center@cc.nara-wu.ac.jp)

URL: <https://diversity-center.nara-wu.ac.jp/>

## 男女共同参画推進本部

男女共同参画推進のため、意識啓発事業として公開講座「知る・学ぶ・伝えるequality」の開催、関西圏女子大学と連携したプロジェクトである異分野交流会の実施、地域自治体との連携による男女共同参画への取組などを行っています。

### 地域連携事業「知る・学ぶ・伝えるequality」

「知る・学ぶ・伝えるequality」講座は社会連携センターが行う地域連携事業の一つとして、男女共同参画推進機構が2010年から展開している事業である。「equality・平等」に関するさまざまなテーマで男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」を身近な問題として捉え、学び、広めることを目的とし公開講座を開催してきた。今年度は「持続可能な生活・生き方」をテーマとして、2回の公開講座を開講した。

### 地域連携事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第1回

#### 「男女共同参画は何を変えるか？」

【日時・場所】 2022年12月14日（水）13：00～14：30 オンライン開催

【講師】 上野 千鶴子氏（社会学者・東京大学名誉教授）

【参加者】 890名（オンライン配信315名・オンデマンド配信575名）

講演ではまず、進学率の推移、男女の大学進学率の国際比較、東大女子合格者比率、医師国家資格試験の女性合格者比率、不適切入試を指摘された大学のその後の女子合格率の変化などの数々のデータにもとづいて現状の分析がなされ、ジェンダー教育学やジェンダー心理学の知見と理論的な考察が冷静な語り口で述べられた。講演の後半では、目指すのは階層・権力関係を保持したまま男女を入れ替えることではなく「弱者が弱者のまま尊重される社会」であるという氏のフェミニズム思想が語られ、「男女共同参画」をジェンダーのみならず、この社会に生きるすべての人に関わるものとして位置付ける新たな提起がなされた。ウェビナーのQ&Aを利用した質疑応答には、参加者から多数の質問が寄せられた。研究者を目指す学生からの「男性中心の学術の世界に入りこめない」という悩みには、同質的な組織においてノイズを生み出すことの重要性が語られるとともに、「研究はそれ自体で大きな報酬がある」という大きな励ましの言葉が贈られ、また、「SNS上でのフェミニズム批判をどう受け止めればよいか」といった質問には、SNSで発信される情報の性質やそれとの付き合い方、フェミニズムが無視される時代を超えて批判される段階に入っていることを肯定的に捉える考え方が示され、活発な議論となった。



### 地域連携事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第2回

#### 「ジェンダー平等～男性からの視点」

【日時・場所】 2023年1月12日（木）13：00～14：30 オンライン開催

【講師】 伊藤 公雄氏（京都産業大学現代社会学部客員教授・ダイバーシティ推進室長）

【参加者】 443名（オンライン配信128名・オンデマンド配信315名）

講演では、最初に、ジェンダー平等や男女共同参画の定義を提示され、日本のジェンダー平等が他国に比べて遅れている社会的背景について説明された。中でも歴史的背景として、日本は明治維新によって近代化が導入されて以降、男女格差を生み出す制度などの確立によって男性主導社会となったが、自治は江戸時代までは女性が社会に受け入れられ、また男性が育児に関わることも一般的であり、西洋諸国に驚かれるほどダイバーシティ社会であったとのことである。またジェンダー平等を目指すというときに、女性に対して意識改革を求めたり、支援することに重点が置かれがちだが、男性主導型社会で生きてきた男性たちが依存できるものを失いそうな「剥奪（感）の男性化」の状況に置かれており、ここから抜け出すためにも男性の自己改革への支援も必要である、との見解を示された。男女の「二色刷り社会」からダイバーシティに開かれた社会を構築するためのヒントを多数提示していただいた。

ズームのチャット機能を利用した質疑応答には、参加者から複数の質問が寄せられ、丁寧な回答をいただいた。ジェンダー平等に関する価値観は世代間で大きな差があるため、若年層が自分たちの考え方を発することができる環境整備や世代間コミュニケーションの活性化が重要であるとまとめられた。



## 関西圏の女子大学の連携推進活動

女性研究者の環境整備や研究力向上と次代の優秀な女性研究者の育成のため、関西圏女子大学間連携による女性研究者共同研究支援を目指して、2014年に関西圏の5女子大学有志によりワーキンググループが結成された。現在は奈良女子大学、武庫川女子大学、神戸松蔭女子学院大学の3大学メンバーが、年に数回のワーキンググループ会議を開催し、女性研究者の共同研究の推進、協働による研究環境の整備・充実、育児・介護共同利用システムなどを目指して活動している。

2022年度は以下の4回のワーキンググループ会議が開催された。

### 2022年度 ワーキンググループ会議開催状況

	開催日	会場	主な議題
第48回	7月20日	オンライン開催	第11回異分野交流会開催の打ち合わせ
第49回	11月9日	オンライン開催	第11回異分野交流会について（発表演題確認と役割分担）
第50回	2月4日	奈良女子大学	第11回異分野交流会について（開催とその反省） 第12回異分野交流会の開催について
第51回	3月14日	オンライン開催	令和5年度異分野交流共同研究シーズ発掘支援経費の採択について 第12回異分野交流会開催について

### 異分野交流会の開催

女性研究者の研究が発展しにくい原因のひとつとして、出産・育児・介護などのライフイベントのために他の研究者と交流する時間がなく、共同研究が実施しにくいことが挙げられる。共同研究萌芽を促進するための試みとして、2016年2月に「異分野キックオフ交流会」を武庫川女子大学で開催し、それ以後毎年開催してきた。今年度は第11回異分野交流会を奈良女子大学で開催した。異分野の研究者が集い研究成果に対して、それぞれの立場から意見を交換することにより、思いがけない共同研究の萌芽が期待できる。

#### ◆第11回異分野交流会

日時： 2023年2月4日（土）13：00～17：00  
会場： 奈良女子大学コラボレーションセンター3階 Z306  
（対面+Zoomによるハイブリッド開催）  
テーマ： 「みつける」「ささえる」「つなげる」  
参加者： 35名（対面30名・オンライン5名）



#### 【プログラム】

- 13：00 開会 あいさつ 奈良女子大学学長 今岡春樹氏
- 13：10 研究発表（パワーポイントによる口頭発表）
- 15：30 異分野交流会（グループワーク）
- 16：30 グループワークまとめ発表
- 17：00 閉会

#### 【発表者と演題】

1. 池谷 知子・大山 茅紗（神戸松蔭女子学院大学）  
「日本語母語話者と日本語学習者のフィラーの比較」
2. 大高 千明（奈良女子大学）・森田 彩（武庫川女子大学）・松尾 善美（武庫川女子大学）  
藤原 素子（奈良女子大学）・永田 隆子（武庫川女子大学）  
「成人・高齢期における調整力に関する横断的特性」
3. 田中 真由美・辻 和成（武庫川女子大学）  
「高等教育機関及び企業における内容言語統合型学習（CLIL）を取り入れた英語教育  
：他学科教員や民間企業従事者との連携を通して」
4. 辻 愛（奈良女子大学）  
「卵子の質に影響する栄養状態・食品成分の探索」
5. 藤井 善仁（武庫川女子大学）  
「農村コミュニティにおけるダイバーシティの実態」
6. 星野 聡子（奈良女子大学）・松村 寿枝（奈良工業高等専門学校）・稲田 愛子（武庫川女子大学）  
「連続加算ストレス課題における認知的評価が生理応答に及ぼす影響」
7. 盛田 有貴（奈良女子大学）  
「アイロニーを感じる人・感じない人—ことばのアイロニー理解に関わる諸要因—」
8. 山崎 真由・溝口 礼奈・田附 敏尚・枝松 奈美・大山 茅紗（神戸松蔭女子学院大学）  
「感動詞「うゑーい」の記述研究」

男女共同参画推進本部の活動についての問い合わせ先

Tel 0742-20-3204 e-mail somusomu@jimu.nara-wu.ac.jp

## ダイバーシティ研究環境支援本部

(旧女性研究者共助支援事業本部・女性研究者養成システム改革推進本部)

「女性研究者支援モデル育成事業」（2006～2008年度）「女性研究者養成システム改革加速事業」（2010～2014年度）において培った女性のライフイベントに配慮した教育研究環境の整備や女性の研究力強化支援を採択期間終了後も大学の重要な事業と位置付け、女性研究者共助支援事業本部と女性研究者養成システム改革推進本部において更なる整備と拡充を図ってきました。2016年4月、教育研究活動のダイバーシティ化を推進するため、2本部を発展的に統合して「ダイバーシティ研究環境支援本部」を設置しました。さらに2019年度には、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業に採択され、ダイバーシティ推進センターと共にさまざまな取組を進めています。

### 教育研究支援員制度

教育研究支援員制度は、補助金の配分を受けて、研究に関する支援が手厚くなった。この制度は、出産・育児・介護に関わる教員（男女を問わず）に支援員を配置する仕組みであり、男性の方にも利用している。また、令和2年1月より、怪我や病気が理由の場合の教育研究支援員の配置もできるようになった。奈良女子大学で働く教員の皆さまが、ライフイベントの中にあっても研究と家庭を両立できるように取組を進める。

#### 2022年度教育研究支援員制度利用状況

	5月～9月	10月以降
利用者数	15名	15名
支援員実人数	24名	24名

### 子育て支援システム

「公共の子育て支援でカバーしきれないところに支援を！」の声に答えて、「ならっこネット」を運営し、16年目を迎えた。専属（共助）サポーターによる支援を行う「ならっこコース」と、専属サポーターのいない「プチならっこコース」を利用者が選択することができる。「ならっこコース」では、Webシステム「Webならっこ」が利用でき、効率よく依頼できる。また、安全で安心な支援を実施するために、各種サポーター講習や大学が保険に加入し、本部スタッフがサポートしている。学生の利用には「育児奨学金制度」、ポストドクターには「ポストドクター育児支援金制度」が整備されており、小学校6年生までのお子様をお持ちの方がならっこネットを利用した際の託児料を支援している。

2023年2月末現在、「ならっこネット」登録利用者数は54名（支援される子どもの数81名）、登録サポーター数は65名である。2月末までの本年度の「ならっこネット」依頼件数は178件で、うち153件が実施された。また、ならっこ病後児保育は1件の支援が実施された。

「ならっこイベント」は、学会や講演会などでの託児を行うもので、運用13年目を迎えた。「集団託児」のほか、マンツーマンの「個別託児」が選べ、利便性を高めている。2020年からのコロナ禍で多くのイベントの開催方法がオンラインへ移行し、依頼は少なくなっているが、今年度月末時点で「ならっこイベント」の依頼件数は23件、うち21件実施し、のべ286名の子どもたちの託児を行い、開催数が回復しつつある。

新型コロナウイルス感染症は現在も多く感染者がいるが、この冬はインフルエンザも猛威を振っている。そんな中でも対面授業やイベントが再開され、行動制限も緩和されつつある。子育て支援についても状況に合わせ対策の見直しを行い、感染拡大防止をきちんと行い託児を実施している。今年度も多くの利用があり、支援を必要とされている方は多い。新規の利用者もサポーターも増えている。

### サポーター講習

子育て支援システムを安全、安心に運営するためには、信頼のおけるサポーターの養成が欠かせない。サポーターに自信をもって支援活動を行っていただけるよう、必要な知識とスキルを十分に学ぶことのできるサポーター講習を実施することが必須である。

本年度は、健康時の支援を行うための基礎知識やスキルの習得を目的とした『通常託児支援のための講習』（「サポーター登録説明会」を含む12時間）、病児・病後児保育支援に必要な子どもの病気に関する知識や看護スキルを学ぶ『病児・病後児保育支援のための講習』（オンデマンド配信講座を含む10時間+1講座）を実施したほか、子育て支援に関する知識や技術を更に広く深く学んでいただくための講習として、新たに『フォローアップ講習』を開講し、9月～11月に下記の3講座を開講した。

- ①【奈良市ファミリー・サポート・センター共催】子どもの嘔吐と処理方法
- ②【公開講座】絵本講座一子どもとともに絵本の世界を楽しもう！
- ③【公開講座】発達が気になる子どもたちの体験世界

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響がある中での開催となったが、感染防止対策を行って対面講習を実施したほか、登録サポーターへのオンデマンド配信を行った。また、公開講座には子育て支援に関心のある一般の方も多く参加され、好評を得た。



## ワークライフバランス支援相談室(旧母性支援相談室)

3名のカウンセラー(産婦人科医師・助産師・社会福祉士)が、学生・教職員からの相談に対応している。女性特有のこころとからだの悩み相談、妊娠・出産・子育てに関する相談、介護(高齢者・障がい者)福祉に関する相談等、健やかにワーク・ライフ・バランスを保てるように支援を行っている。相談者の中には男性も含まれており、より多くの学生や教職員に気軽に利用していただけるように、2016年4月より相談室の名称をワークライフバランス支援相談室に変更した。また、2019年10月より、奈良工業高等専門学校及び武庫川女子大学、また2021年4月よりプロアシスト社、佐藤薬品工業社、帝人フロンティア社も共同利用ができるようになった。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大が続いているため、相談は来室とオンラインの両方で対応した。また今年度開催した「ワークライフバランス支援相談室ミニ講座」では、「介護保険・障がい者福祉制度についての知識や介護予防など役立つ情報の提供」「生涯にわたる女性の健康について性差医療の立場から理解を深める」「生命の誕生・いのちを育むということに意識を向ける」をテーマに、すべてオンラインにて開催した。

共同実施機関の方を含め、たくさんの教員・職員・学生の皆様に参加していただいた。



## 情報の発信

今年度(2月末現在)は、「ならっこネット通信」(メールマガジン)を3回、「ならっこニュース」(メールマガジン)を14回配信、サポーター向け冊子「サポーター通信」を1回、ワークライフバランス支援相談室チラシを2回発行した。

## ならっこルーム(奈良女子大学託児支援室)

「ならっこルーム」は2008年に開設された託児支援室であり、ならっこネットでの支援のほか、ならっこイベントでの託児や子育て支援システム利用者のご家族、お子様を連れて来学された方などが利用できる。感染症対策として、消毒用アルコール・マスク・フェイスガード・パーティションなどの設置、空間除菌脱臭機・換気扇を24時間稼働させている。また、利用する方々にマスク着用・手洗い・アルコール消毒・換気の呼びかけを行い、室内や備品などはこまめな清掃と消毒を行った。2月末現在で83件の予約があり、うち70件の利用があった。利用者のご家族とお子様がゆっくり過ごしたり、お子様を室内で遊ばせながら一緒に過ごす利用者も多い。今年度も新しい利用者やお子様の登録も増え、ますます需要が高まっている。

## 女性研究者ネットワーク

女性研究者ネットワークでは、女性研究者の研究力の更なる向上に資することを目的として、学内で主に女性教員を対象とした情報を整理して配信すると共に、大学内外からの女性研究者にとって有益な情報を集約してメール配信している。2017年度より、情報提供を希望する大学院生・ポストドクターにも配信している。2022年度(2月末現在)は、ワークライフバランス支援相談室、子育て支援システム、教育研究支援員制度の利用案内、学内外の公募情報(研究スキルアップ経費他)、講演会案内等、38件の情報配信を行った。

## 研究活動支援事業(研究スキルアップ経費)

本事業では、2010年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速事業」(2011年度より科学技術人材育成費補助金として実施)に採択され、5年間の採択期間終了後も引き続き、理工農系女性研究者の採用促進や、研究スキルアップをはじめとする研究者養成活動等の取組を進めてきた。2017年度からは、研究スキルアップ経費の支援対象を理工農系に加えて、医・保健分野へ範囲を拡大し、2020年度からは、支援対象を全ての分野へ拡大し、対象者も、常勤職員(助教・講師・准教授・教授)だけではなく特任教員、博士研究員からの応募を可能とした。

## 2022年度研究活動支援事業の活動実績

### ◆研究スキルアップ経費支援

女性研究者を対象に、国際会議・国内会議等の参加及び英語論文校閲等の経費を支援した。

### 2022年度研究スキルアップ経費支援の利用状況

理学系研究者	工学系研究者	農学系研究者	医・保健系研究者
9件	1件	5件	2件

女性研究者の研究活動支援に関する問い合わせ先:

URL : <https://gepo.nara-wu.ac.jp/keihishien/>

e-mail : [j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp)

## ダイバーシティ研究環境支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax : 0742-20-3344

URL : <https://gepo.nara-wu.ac.jp/>

e-mail : [shien@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:shien@cc.nara-wu.ac.jp)

# キャリア開発支援本部

2022年度は博士号取得支援SGCフェローシップ事業、博士後期課程学生支援SGC+プロジェクトがスタートして2年目ということで、キャリア開発支援本部では各種の支援の取組が実施されました。これまでのC-ENGINEの研究インターンシップ、自己分析セミナー、進路に関する相談等の継続と、SGC/SGC+に関連する授業やイベント等の企画・実施に加え、学生さんの主体的な取組を促す活動にも力を入れました。

## 博士後期課程学生への給付型支援制度の取組

**奈良女子大学博士号取得支援 SGCフェローシップ** 文部科学省科学技術人材育成費補助事業 科学技術イノベーション創出に向けた 大学フェローシップ創設事業

**奈良女子大学博士後期課程学生支援 SGC+プロジェクト** 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 次世代研究者挑戦的研究プログラム

### 募集状況

支援対象者の募集はHPや大学院生向けメールマガジン等で周知した。

**SGC** 募集時期(募集定員)→採択者

- 2022年度支援開始の学生募集:  
3月募集(2)→2名  
9月募集(1)→1名
- 2023年度進学予定の学生募集:  
4月募集(4)→4名(内定)

**SGC+**

- 2022年度支援開始の学生募集:  
3月募集(3)→2名  
9月募集(2※)→2名  
※欠員募集を含む
- 2023年度進学予定の学生募集:  
4月募集(4)→3名(内定)



### 学生の自主的活動の支援

「博・学・カフェ」は3名のD学生が企画した研究ポスター展で、ポスター参加者は24名。学生がよく利用する学内カフェのパーティーションに掲示し、交流会では下級生の質問にD学生が答えた。

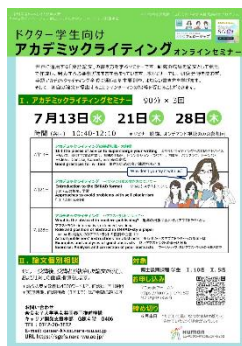


キャリア開発支援本部は、運営上のアドバイスをしたり、ポスター賞の授与などにより支援した。



### 各種セミナー等のイベント

以下に示すイベントのほか、受給生が必要とする「確定申告セミナー」や、次ページに示す授業を通じて、研究力向上およびキャリアパス支援を行った。キャリアトークカフェは、多様なロールモデルとの触れ合いの場として、本学大学院OG等を迎えて談話する取り組みを、シリーズ化したものである。



### SGC/SGC+ 合同交流会

12月21日に両プロジェクトの受給者、事業運営に関わる教員等による交流会を実施した。

参加者全員の自己紹介・研究紹介の後に、グループに分かれて、研究の枠を超えた茶話会を楽しんだ。



### 広報活動の展開

2021年度から各種媒体に掲載してきた4人のキャラクターの名前を募集し、同時に応募者にアンケートを実施するなど、認知度向上のためのキャラクターマーケティングの手法に則り、事業参加者の底上げを狙った。

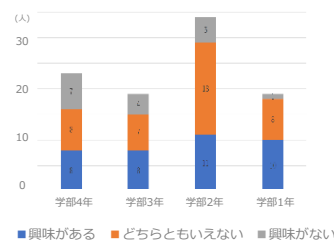
4人の名前は以下のとおり。

- S 佐保奏子さん
- G 後藤理奈さん
- C 千歳舞さん
- B 馬場園風香さん



学生生協との連携により109名の応募があった。

質問: 博士後期課程に興味がありますか?



アンケートの回答から学部生のドクターコースへの関心を探る。低学年からの認知度を高める取り組みが、進学機運の醸成に役立つことが推察された。



【解説パンフレット】学部生にも配布し、HPからダウンロードもできる。



## 授業支援 博士後期課程

### ●キャリアセミナー

#### (ビジネススキル・インターンシップほか) A

日常の研究活動の中で、トランスファラブルスキル(転用可能な能力)についての意識化を促し、選択したスキルの自己評価と他者からのコメントを得る機会等を提供した。受講者7名が相互のプレゼンを通じて考察を共有した。

### ●自己分析・ワークスタイルセミナーA

ワークを用いた自己分析と、学生が主体的にセミナーを企画する実習を取り入れた。自分のキャリア形成にプラスの影響を与えうる講師を選定し、企画から実施に向けて取り組んだ。10人が受講し、下に示す4件の企画が実施に至った。

## 博士前期課程

### ●プレゼンテーション演習

自身の研究について、分野外の人にもわかりやすく説明できることは大きな強みとなる。そのためのプレゼンテーションの方法を実践的に身につける機会を提供した。3名が受講した。

海外でラウンズを仕事にする  
- 自由なキャリアの理想と現実、適切な切り替え方 -

【DATE】 2023/1/10 (Tue) 10:00 - 11:30  
【LOCATION】 伊東キャンパス 416  
【PROFILE】 中島 聡博  
【REGISTRATION】  
<https://forms.gle/31wD7wC7C3G5u8>

実践の道を探る研究者たち  
- NPO法人 -

日時 2023年2月1日(水) (15:00~16:30)  
場所 京大女子大学 E218-2  
講師 岩橋 謙弘 (オンライン配信も実施します)

企業への就職と博士号  
- 企業で活躍している研究者に聞く -

日時 2023年2月6日(月)  
[13:00~14:00 @B1206]  
講師 金子 明弘 (ダイキン工業株式会社)

研究者のキャリアライフの多様性を語る  
- アドバンスドキャリア -

日時 2023年2月21日(水)15時~16時30分  
場所 奈良女子大学  
S128 および Zoom(オンライン14時30分より受付)

## C-ENGINE (産学協働イノベーション人材育成協議会) の「研究インターンシップ」に10名をコーディネート

2022年度の実施状況は下表のとおりである。過去2年は実施件数がそれぞれ7件でコロナ禍の影響により減少していたが、リモートとの組み合わせが一般化したことやコーディネーターが増員されたことなどの理由により、10名が実施に至り、コロナ禍前の水準に戻りつつある。博士後期課程の2名はSGCの受給学生である。

5月にはインターンシップ報告会(右チラシ)を開催し、前年にインターンシップに参加した学生(SGC+の学生を含む)に体験発表してもらうことで、C-ENGINE主催の交流会への参加を促した。

### 2022年度 C-ENGINE 研究インターンシップ実績

所属 (専攻/コース/学年)	インターンシップ先	実施期間 (実施体制)	テーマ
化学生物環境学専攻 (化学コース)	M1 京セラ(株) けいはんなリサーチセンター(京都)	8/29~9/16	リチウムイオンバッテリー部材の大気非暴露XRD測定仕様の構築
住環境学専攻	M1 京セラ(株) メディカル開発センター(滋賀)	10/1~10/31	医療/ヘルスケア分野における行動変容の実現
自然科学専攻	D1 日本ゼオン(株)(神奈川)	10/11~11/11	ゴム材料の静的・動的解析を通した物性発現機構の理解
数物科学 (数学コース)	M1 日東電工(株)(大阪)	10/31~11/25	AIによる欠陥画像分類の検討
数物科学 (物理学コース)	M1 三菱電機(株)(兵庫)	11/2~11/16	電子機器の冷却技術について
数物科学 (物理学コース)	M1 三菱重工業(株)(兵庫)	11/7~12/2	機械の電化, 知能化のためのセンシング, エレクトロニクス技術開発
数物科学専攻 (物理学コース)	M1 (株)リコー(神奈川)	11/7~12/9	インクジェット向けAI活用技術の開発
心身健康学専攻 (スポーツ科学コース)	M1 京セラ(株) みなとみらいリサーチセンター(神奈川)	11/14~12/16	店舗実証実験に向けた実験プロトコル策定及び音声フィードバックの効果検証
生活工学共同専攻	M1 京セラ(株) みなとみらいリサーチセンター(神奈川)	11/14~12/16	人間拡張領域に関する研究 知覚の拡張
自然科学専攻	D2 BIPROGY(株)(東京)	2023/1/4~3/31	量子アルゴリズムの能力を探る研究

C-ENGINE SGC/SGC+ 研究インターンシップ連動企画  
学内報告会 企業との交流会  
5/16 (金) 16:30~18:00

## その他の活動

- 大学院生等のキャリア(就活)等相談、(個別対応の)自己分析セミナー
- 学術振興会特別研究員等申請書作成支援
- ドクターコース進学説明会、学振説明会、受給者向け説明会にて支援内容の説明
- 奈良経済同友会と本学との交流会において「大学院生のキャリア開発とイノベーションー女性研究者の卵の行方ー」と題して話題提供した。
- 佐保会大阪支部での本学ドクターOGの講演会の際に、SGC等のPRを行った。

キャリア開発支援本部の活動についての問い合わせ先 Tel 0742-20-3572

URL <https://cdpd.nara-wu.ac.jp> e-mail [career-k@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:career-k@cc.nara-wu.ac.jp) [SGC URL] <https://sgcfs.nara-wu.ac.jp>

## 男女共同参画活動のアピールー自治体・他団体等との連携への取り組みー

### ◆奈良県・なら男女共同参画週間パネル展に協力参加

2022年6月24日(金)～6月26日(日)に開催された令和4年度なら男女共同参画週間イベント(奈良県女性センター主催)に協力参加した。本学からは男女共同参画推進機構の取組に関するパネルを展示した。

### ◆全国ダイバーシティネットワーク組織・近畿ブロック会議に協力参加

2023年2月27日(月)にオンラインで開催された令和4年度第2回近畿ブロック会議に、春本特任教授が協力参加した。

### ◆2022年度第1回南近畿女性研究者支援ネットワーク会議に協力参加

2022年7月27日(金)にオンラインで開催された上記会議に星野機構長、安田特任教授が協力参加した。

### ◆サクヤヒメと語るキラリカフェ「働くて、どんな風に？」に協力参加

2022年11月16日(水)大阪公立大学女性研究者支援室主催の「サクヤヒメと語るキラリカフェ」に、安田特任教授、大学院生2名が参加し、企業で活躍する女性リーダーと歓談した。

### ◆第6回女性研究者研究発表交流会に協力参加

2022年12月2日(金)積水ハウス株式会社主催、南近畿女性研究者支援ネットワーク共催の第6回女性研究者研究発表交流会に、安田特任教授が協力参加し、パネリストとして生活環境学部室崎千重准教授が発表した。

### ◆奈良ゾンタクラブ理系若手女性研究者奨励賞第4回選考と授賞式

上記の賞の選考の結果、矢田詩歩氏(研究院自然科学系化学領域助教)を第4回受賞者に決定した。授賞式は、2022年9月26日(月)に記念館第二会議室にて行われ、奈良ゾンタクラブ中村絹代会長より目録が進呈された。



### ◆2022年度奈良女子大学マイクロン科学技術研究助成を実施

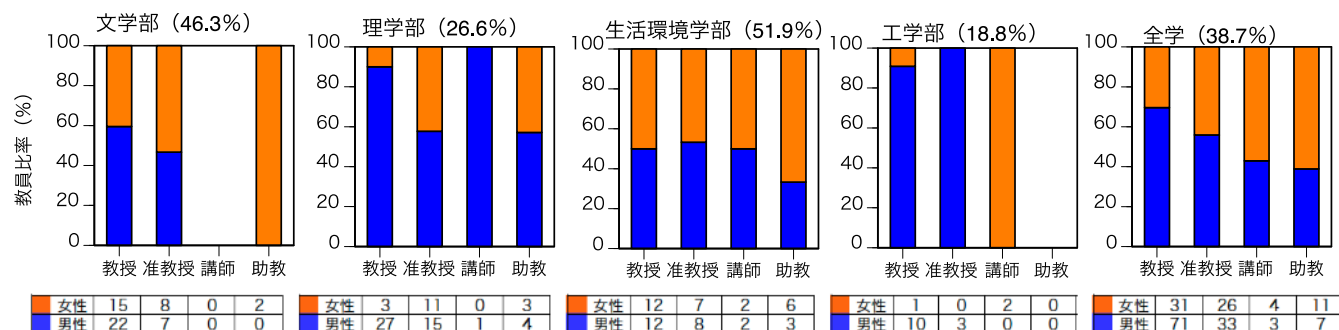
マイクロン・テクノロジー財団の寄付を受け、奈良女子大学に在籍する理系を専門とする大学院生及び女性研究者を支援するため、「奈良女子大学マイクロン科学技術研究助成」を立ち上げ、女性研究者1名、博士後期学生2名、博士前期学生13名に研究助成を行った。

## 奈良女子大学教員に占める女性教員の割合

本学の教員数は、2022年5月1日現在で186名。そのうち女性教員は72名(38.7%)である。2005年から18年間に渡る男女共同参画推進機構(男女共同参画推進室としてスタート)のリードによって女性研究者への支援体制が整備されたこともあり、女性教員比率は徐々に上昇してきた。職階別による女性教員比率は、学部によって事情が異なるが、概して上位職階は低く、下位職階にいくほど高くなる傾向にあり、やや改善がみられるものの、18年前と傾向は変化していない。2022年6月に学内公表された「一般事業主行動計画達成のための奈良女子大学の取組方針」では、令和10年3月までに女性教員在職比率44%、自然科学系では女性教員の在職比率を35%、上位職比率を31%に向上させることとした。文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ補助事業(2019年度～2024年度)により、女性研究者の研究力向上、研究環境改善に向けて様々な取組が実施されており、女性教員比率向上にさらなる努力が望まれる。

## 奈良女子大学教員の男女別人数(2022年5月1日現在)

### 大学全体の女性教員比率38.7%



\* 教員は学部には所属する教授・准教授・講師・助教とした。\* \* 図中括弧内の数字は各学部の女性教員比率を示す。

編集・発行:奈良女子大学男女共同参画推進機構

連絡先:奈良女子大学総務課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742-20-3204 Fax 0742-20-3205

URL <https://gepo.nara-wu.ac.jp/>

